

○「個を育てる」学級づくり・授業づくり 岡本 美穂

100ます計算は、計画的にきっちり。最初は全員ができるまで待ち、実態を知る。計算の力をつけるためだけでなく、学習規律、集中力をつけることもできる。やりっぱなしでなく、どうだったか確認。「出合いの椅子」のペア学習は、いろいろな子に接する機会、話し合い、礼儀を学ぶ。国語も、音読や市販のテストで点数をとれるようにするなど結果が出ることに取り組み、国語を好きにさせることが大切。要約の仕方もちょうと指導し、新聞づくりに生かす。つぶやき学習を試験的に実施。平均点が上がリ、積極的にペア学習に取り組む様子が見られた。紙面では紹介しきれない多様な実践が提案されたが、どれも明確な意図がある。

○一人ひとりが成長する3年生の学級・学力づくり 崎山 美和

環境を整えることからスタート。教室の入り口や朝の片付けなど視覚に訴え、手順を示す。授業づくりでは、声がそろふことが重要。朝の挨拶リレーや音読の最初の音の出し方を実技で伝授。語彙力を伸ばすための共通テーマでの日記指導や新聞指導を継続された。

○『おはよう』『さようなら』まで学力づくりてんこ盛り

河田 奈緒美

タイトルの通り、一日の流れの中で、短時間でできる学力づくりの工夫がてんこ盛り。短い時間でもできることがある。係り活動とリンクさせて学力づくりを子ども主体で進めているところが、楽しく継続できる秘訣と思った。簡単な短文作りから、条件付きのミニ作文まで書けるようになった。連絡帳の指導を通して保護者との信頼関係もできた。継続は大きな力。

○核となる実践を基に創る、伸びるクラス！ 堀井 克也

どの学年でも必ず行う、自分にとっての核となる実践は何か、そう問われて考え込んでしまった。堀井先生の実践は次のようなものだった。

① 「できた！」で

どの子も伸ばす体育実践

体づくりから丁寧を考え、宿題に出し、発表タイムでお互いに刺激しあいながら、どの子も伸ばす体育。

② 子どもが変わる学び合いの授業づくり

資料研究から発問のポイントまで聞くと、子どもが「国語好き」に変わっていった。

③ クラス会議

子どもを信じて任せることで、成長する、伸びるクラスに。

○楽しく漢字指導 福原 廣子

漢字そのものは好きでも、教えることは特に…。そんな先生が多かった。成果を伴いにくいノートやドリルの丸付けから解放されて、子どもたちと楽しく漢字を学び、力も伸ばす。教える時は分解と総合、練習は唱え書き、使うのは漢字カルタ。何よりも漢字への意識の変化が見られ、どの子も前向きに学ぶ姿がそこにあった。

○計算で取り組む学級づくり

加藤 英介

百マスは、確かにクラス全体で取り組むものだが、一人ひとりの活動は最後まで個別だった。しかし、その概念を広げたのが加藤先生の取り組みだ。問題を解き終わると、まだがんばっている子そばへ行く。その動きは決して騒がしくなく、心地よいものだった。